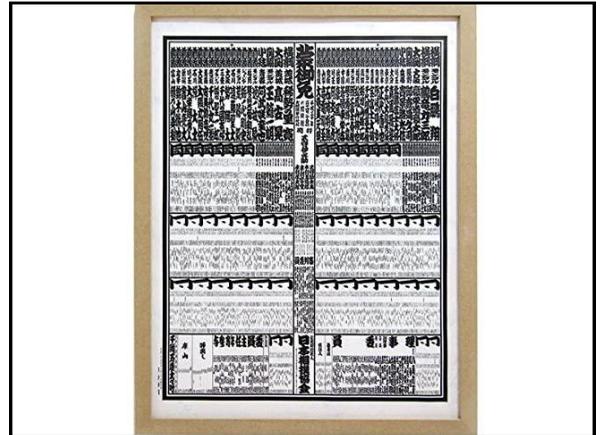


「心あらわれる献金」

ルカの福音書21章1-4節

1



2

また、人々がみな耳を傾けているときに、イエスは弟子たちに言われた。「律法学者たちには用心なさい。彼らは長い衣を着て歩き回ることが好きで、広場であいさつされることや会堂の上席、宴会の上座を好みます。また、やもめの家を食い尽くし、見栄を張って長く祈ります。こういう人たちは、より厳しい罰を受けるのです。」 ルカ20:45-47

3

イエスは目を上げて、金持ちたちが献金箱に献金を投げ入れられているのを見ておられた。そして、ある貧しいやもめが、そこにレプタ銅貨を二枚投げ入れるのを見て、こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、だれよりも多くを投げ入れました。あの人はみな、あり余る中から献金として投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っていた生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」 ルカ21:1-4

4

イエス様に選ばれた教師たち

- 18章では、取税人が祈りの手本
- 子どもたちが信仰のお手本
- 7章では、信者ではない外国人の百人隊長が信仰の先生
- 17章では、当時イスラエル人が見下していたサマリヤ人が感謝の先生、10章の良いサマリヤ人
- 「やもめ先生」2章の84歳の女預言者アンナ、18章の粘り強い祈りの教師のやもめ。

5

すべては創造された神のもの

- 「聞けわが民よ。わたしは語ろう。イスラエルよわたしはあなたを戒めよう。わたしは神あなたの神である。あなたのいけにえのことであなたを責めるのではないあなたの全焼のささげ物はいつもわたしの前にある。わたしはあなたの家から雄牛を囲いから雄やぎを取ろうとしているのではない。森のすべての獣はわたしのもの。千の丘の家畜らも。わたしは山の鳥も残らず知っている。野に群がるものたちもわたしのものにいる。たとえ飢えてもわたしはあなたに言わない。世界とそれに満ちるものはわたしのものだ。わたしが雄牛の肉を食べ雄やぎの血を飲むだろうか。感謝のいけにえを神に献げよ。あなたの誓いをいと高き神に果たせ。苦難の日にわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出しあなたはわたしをあがめる。」 詩50:7-15

6

ギルガメシュの叙事詩



・紀元前650年頃のアッシリア語訳

7

ギルガメシュの叙事詩

- ・この叙事詩は古代の伝説の王ギルガメシュの驚くべき経験を語っています。
- ・この粘土板は1848年に開始されたニネベの王宮跡の発掘で出土しました。これは紀元前650年頃に翻訳されたアッシリア版であり、その原典は紀元前2000年頃にシュメル人によって書かれたものと思われています。これは1872年にイギリスのジョージ・スミス氏によって翻訳されました。その中にある大洪水の記録と創世記の記事の間にはいくつかの驚くべき共通点があります。

8

ギルガメシュの叙事詩

- ・しかし、そこには一つの大きな違いがあります。
- ・聖書は天地を創造した唯一の神を教えますが、ギルガメシュの記録によると、洪水の後、(大勢の)神々は腹をすかせ(洪水の間神々にいけにえが捧げられなかったため)、祭壇の上にささげられたいけにえにハエの様にたかたとあります。
- ・わたしが雄牛の肉を食べ雄やぎの血を飲むだろうか。感謝のいけにえを神に献げよ。あなたの誓いをいと高き神に果たせ。苦難の日にわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出しあなたはわたしをあがめる。詩50:13-15

9

すべては創造された神のもの

- ・私たちは神によって創造され、生かされている。
- ・空気、水、オゾン層、太陽、植物、、、は神によって造られたもの。
- ・人間が得意なのは、壊すこと、汚染すること。
- ・私たちは自分がどれだけ知らないかを知らない
- ・知識は本来人間をへりくだらせ、創造者である神への感謝と畏敬を深めるはず。「主を恐れることは知恵のはじめ。」箴言1:7、9:10

10

すべては創造された神のもの

- ・この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手で造られた宮にお住みにはなりません。また、何か足りないかのよう、人の手によって仕えられる必要もありません。神ご自身がすべての人に、いのちと息と万物を与えておられるのですから。神は、一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、住まいの境をお定めになりました。それは、神を求めさせるためです。もし人が手探りで求めることがあれば、神を見出すこともあるでしょう。確かに、神は私たち一人ひとりから遠く離れてはおられません。『私たちは神の中に生き、動き、存在している』のです。あなたがたのうちのある詩人たちも、『私たちもまた、その子孫である』と言ったとおりです。使徒17:24-28

11

神が求めるもの

- ・私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。1ヨハネ4:10-11
- ・私たちが愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。1ヨハネ4:19
- ・ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。ローマ12:1

12

神が求めるもの

あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。使20:28

あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。1コリント6:19-20

13

すべてを捧げるいろいろな生き方

- すべての人が同じことを同じようやらなくても良い。
- ドルカスには裁縫の技術や時間があった(良いわざとほどこし) 使徒9章
- ザアカイにはたくさんのお金 ルカ19章
- パウロは聖書の知識と啓示、パウロは天幕作りの技術を生かして働きながら宣教した。ペテロとは違う方法 1コリント9章、2コリント11章
- アクラとプリスキラは自分たちのビジネスを使って宣教師を支えたり、育てたり、教会を助けたりした 使徒18章
- イエス様と弟子たちの宣教を自分たちの財産で支えた女性の弟子たち(ルカ8:1-3)。

14

献金はどこへ行く

- 心からの献金は、神の心に届く！
- 聖歌312の4番「ささぐるものすべては、君が手より出でたり、ささげまつらん、ゆだねまつらん、今わが身をなが手に」
- 「心あらわれる献金」とは「心が現れる献金
- 「心洗われる」フィーリングや体験だけでは十分ではない
- 賜物(お金)が生きるのは、神に捧げた時、捧げないで持っているとう腐ってしまう。

15

心を変えていただく祈り

- 神よ私を探り私の心を知ってください。私を調べ私の思い煩いを知ってください。私のうちに傷のついた道があるかないかを見て私をとこしえの道に導いてください。詩139:23-24
- あなたのしもべを傲慢から守ってください。それらが私を支配しないようにしてください。そのとき私は大きな背きから解き放たれて全き者となるでしょう。私の口のことばと私の心の思いとが御前に受け入れられますように。【主】よわが岩わが贖い主よ。詩19:13-14

16